



Future Report 2023

2023.01.01 - 2023.06.30

フューチャー株式会社 TSE PRIME SECTION:4722



ごあいさつ

テクノロジーとあらゆる分野におけるノウハウの活用で ビジネスや社会における価値創出と持続的成長に貢献する

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

フューチャーは、経営戦略とIT戦略の両輪で考えるという理念のもと、多種多様な業種・業界のお客様の未来価値を最大化させることをミッションに事業を展開しています。戦略的ITをお客様に提供する「ITコンサルティング&サービス事業」と、培ってきたノウハウをグループ内でマーケティング、スポーツ、教育、Eコマースなどアントレプレナーシップで実践する「ビジネスイノベーション事業」の2WAY戦略によってシナジー効果を創出し、グループ全体の事業拡大と未来価値の向上を図っています。

経済・社会における急速なデジタル化により、私たちを取り巻く環境が劇的に変化する中、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進やカーボンニュートラル実現に向けた取組み、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進など社会全体が新たな課題に直面しています。これらを解決するには、先進的なテクノロジーとあらゆる分野で培われたノウハウの活用によって新しい価値の創出に挑戦し続けることが重要です。

ビジネスや社会の根幹にITが不可欠な今、フューチャーはあらゆる事象から発生するデータをもとに、微細な変化も可視化するリアルタイムアーキテクチャによって、企業や社会のDXを推進しています。これからも真の改革を支援するとともに、お客様のビジネスや社会の持続的な成長と発展に貢献してまいります。



フューチャー株式会社
代表取締役会長 兼 社長 グループCEO

2023年9月

金丸恭文

当グループの現状及び今後の戦略について

2023年12月期 第2四半期(累計)の事業概況

2023年12月期 第2四半期のハイライト

01

連結売上高は
前年同期比9.3%増の
283億円

02

連結営業利益は
前年同期比1.8%増の
63億円

2023年12月期第2四半期(累計)の連結業績は、売上高28,344百万円(前年同期比9.3%増)、営業利益6,324百万円(同1.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益4,319百万円(同4.4%減)となりました。

当第2四半期は、あらゆる業種や領域において、DXや業務改革、新たなデジタルサービスの開発などITを通じた抜本的な経営改革が積極的に進められました。また、働き方改革関連法の施行等に伴い、働き方改革やサプライチェーン全体の見直し、ESG・SDGs関連分野におけるITの活用も加速しています。個人においては、ECサイト経由での購買、動画やオンラインを活用した娯楽やスポーツ観戦、ネットサービス上での教育・自己啓発などでITの利用が浸透しました。

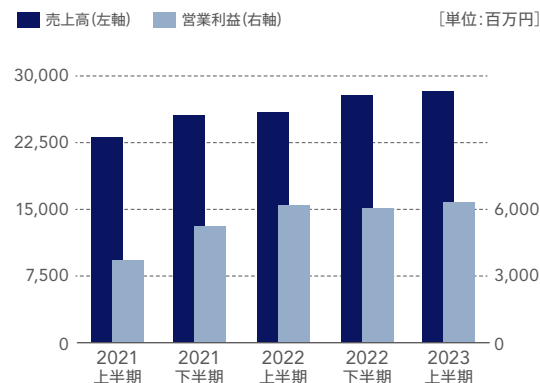
当社においては、多種多様なお客様から案件を獲得したことに加え、中長期的な成長に資するプロジェクトが順調に進行した結果、増収・増益となりました。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は、繰延税金資産の取り崩しなどから若干の減益となりました。

株主還元策

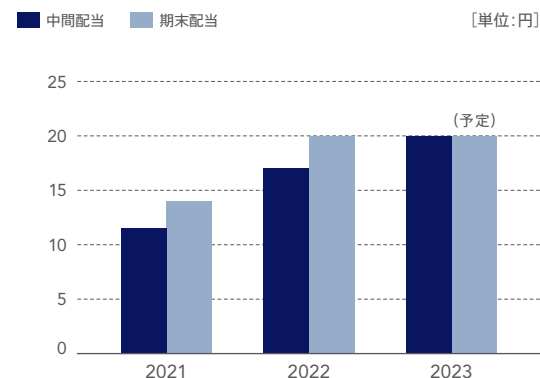
株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況等を総合的に勘案して、連結の配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2023年12月期の中間配当金については1株当たり20円とすることを決議いたしました。また、期末配当金は1株当たり20円、中間配当金と合計した年間配当金は40円を予定しています。

[連結] 半期別業績推移



1株当たり配当金



※2022年1月1日を効力発生日として1株につき2株の割合で株式分割を実施しています。2021年の年間配当額は当該株式分割の影響を考慮して記載しています。

» Future Topics

フューチャートピックス

» あらゆる業種や領域においてDXの取組みが活発化

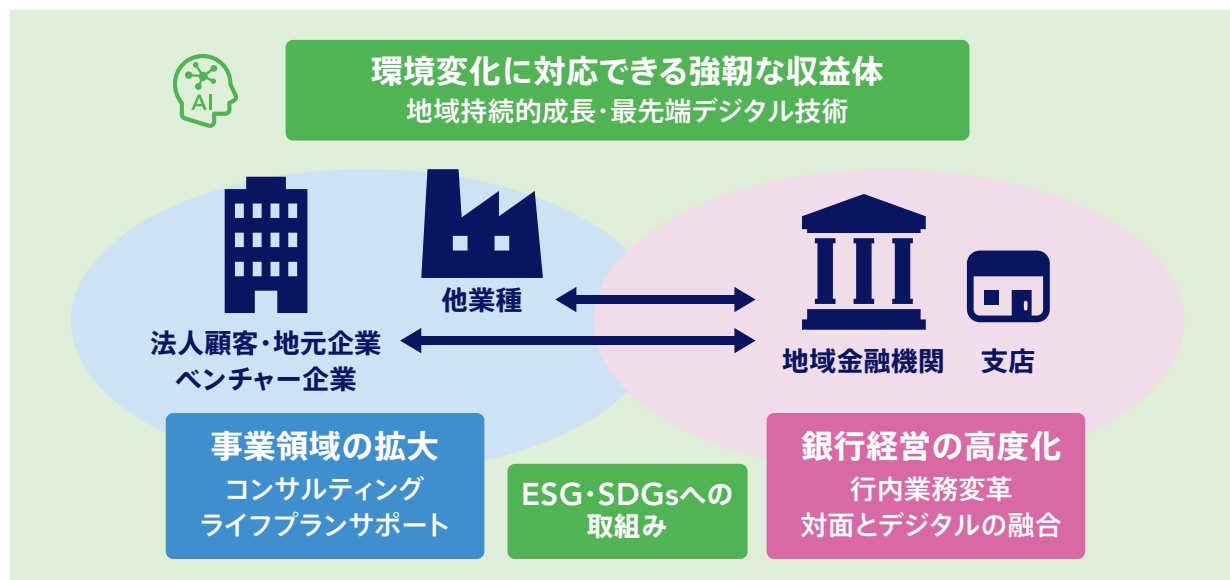
サプライチェーンの見直しや働き方改革などの推進に向けて、多くの業種や領域でデジタル化が加速し続けています。フューチャーのお客様に関しても、流通、小売・卸をはじめ、物流・生活インフラ、製造・エネルギー、メディア、保険・証券、銀行など様々な業界でDXの取組みが活発化しており、積極的な投資が行われています。また、この2～3年はDX投資が控えめだったアパレル業界のお客様においても、2023年上期から投資が回復しており、DXの取組みが再び活発化しています。



》地域金融機関のDX推進と地域創生への貢献を支援

地域金融機関向け「次世代バンキングシステム」の開発は、フューチャーの中長期的な成長に資するプロジェクトでもあり、株主や投資家の皆様からも高い関心が寄せられています。1行目となる福島銀行様では、2024年下期の本稼働に向けて、計画どおり総合テストフェーズに移行しました。2行目となる島根銀行様においても、基本設計が完了し、こちらも計画どおり開発フェーズに移行しています。このプロジェクトの最終目的は、その地域のコアとなる金融機関が強くなり、あらゆる業種の地元企業を対象とした真のDXコンサルティングサービスの提供をつうじて地域創生に貢献していけるよう支援することです。そのためにフューチャーはお客様とともにデジタル化による店舗と本部のシームレスな連携等の業務改革を進め、経営の高度化を目指します。

また、より多くの地域に貢献するため、これまでに渉外融資支援システム「FutureBANK」を導入いただいている30行以上のお客様に対しても、「次世代バンキングシステム」の提案を行っています。



» Future Topics

フューチャートピックス

» 物流特化型IT専門チームで業界全体の課題を解決

物流業界では、働き方改革による物流停滞と人手不足が懸念される「2024年問題」などの課題解決に向け、個社ごとではなく業界全体での仕組み作りや、物流領域におけるデジタル化・DX推進が必要とされています。フューチャーは、SGホールディングス様及び佐川急便様との長年にわたる改革プロジェクトで培ったノウハウと、小売業など荷主となるお客様との多数のプロジェクト実績を強みに、荷主からのアプローチによるサプライチェーン全体の最適化をデザインしていきます。また、フューチャーはお客様にとって唯一無二の存在になるべく、物流に特化したコンサルタントによる一気通貫のコンサルティングサービスの提供のほか、業界初となるクラウド型自動化機器制御システム※「FUTURE LOGI」の開発や、伝票読取を効率化する最新AI OCRのスマートフォンへの搭載などにも積極的に投資しています。

※あらゆる物流の自動化機器と「つながる」「制御する」仕組み。Warehouse Control System (WCS) と呼ばれている。

お客様に伴走し、物流DXを実現



経営と物流をつなぐ構想設計から立ち上げまで
一気通貫のコンサルティング



業種＋物流知見を持つ
物流に特化した人材を採用

「ないものはつくる」積極投資



業界初!クラウド型自動化機器制御システム
「FUTURE LOGI」導入企業決定



従来のAI OCR技術に加え、これらの
AI技術をスマートフォン内に搭載

当社の
取組み

》生成AIをお客様ビジネスや社内システム開発プロジェクトに適用

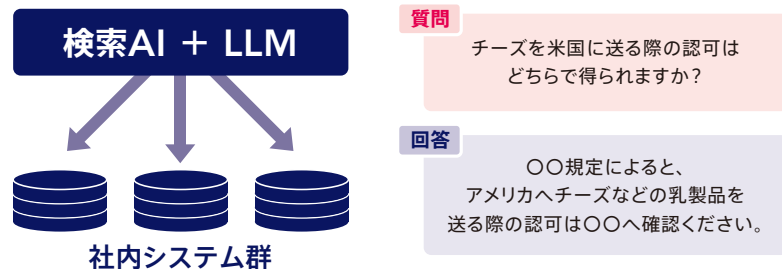
フューチャーは、生成AI(Generative AI)とLLM(Large Language Models:大規模言語モデル)の組み合わせにより、お客様のビジネスでのAI活用を進めています。オープンデータから回答を生成する人工知能チャットボットの機能に加え、お客様の社内にある膨大なデータをLLMが整理して回答することで、お客様のビジネスの生産性向上に寄与していきます。

また、フューチャーのシステム開発プロジェクトにおいては、システム設計・開発の品質向上のためのソリューション「Futurefraqta[®]」に生成AIの技術を組み合わせ、業務フロー解析をもとにしたAIによる業務改革の提案や、テストフェーズにおける品質の向上を図っていきます。

※「Futurefraqta」は、現行システムの設計書やソースコードを可視化・分析し(特許取得済)、システム全体の構造を捉えることで科学的なプロジェクト運営を実現するフューチャー独自のソリューションです。

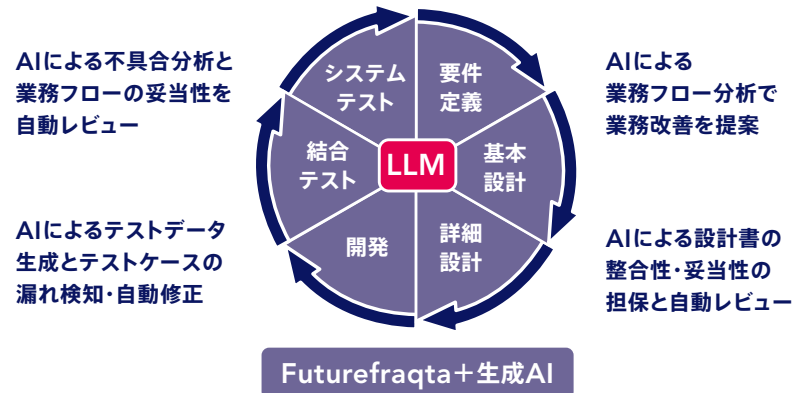
お客様ビジネスでの利用

社内に眠る膨大なデータをLLMが整理し回答



- 社内データの一括検索から「相談へ進化」
- LLM活用で未整理のデータをノウハウに転換

システム開発プロジェクトでの利用



- Futurefraqtaの実績データとノウハウに生成AIを組み合わせ、エンジニアリングを進化

» Future Topics

フューチャートピックス

» スポーツイベント施策と会員管理システムの他業種展開で増収・増益 | LaiBlitz

ライブリッツは、メタバースやAR・VR技術を駆使したスポーツチームのファン向けアプリの提供を開始しました。試合前後のバーチャル会場と当日の試合会場を連動させ、スタンプラリーやARフォトなど様々なスポーツ施策を実施することで、ファンとのコミュニケーションを促進し満足度向上につなげます。第一弾として、「パリ・サン＝ジェルマン ハンドボールジャパンツアー2023」とのコラボ企画を実施し、メタバースと試合会場を連動させた集客支援を実現しました。

さらに、ライブリッツとフューチャーが一体となって、スポーツで実績のある会員管理・ポイントシステムを、建設、飲食、保険など他業種のお客様に展開することで、売上を131%、営業利益を136%(ともに前年同期比)伸ばしています。



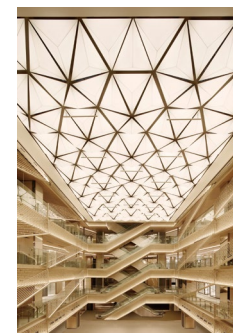
» デザインスタジオがフューチャーグループに参画

CURIOSITY

キュリオシティは、フランス人デザイナーのグエナエル・ニコラ氏が、1998年に東京で創業したデザインスタジオであり、海外ラグジュアリーブランドの店舗、高級ホテル、大型商業施設などの独創的なデザインを得意とし、多数の実績があります。キュリオシティをグループに迎えたことで、フューチャーのお客様からの「リアル店舗とバーチャル店舗を連携させたい」という要望に、最新テクノロジーやコンサルティング力にデザイン力も反映した付加価値で応えることが可能になりました。また、ライブリッツが展開するバーチャル空間にキュリオシティのリアル空間で培ったデザイン力を活用するなど、グループのシナジーを高め成長につなげていきます。



キュリオシティ本社(東京都渋谷区)



デザイン実績(GINZA SIX)

特集

グループ独自のメタバースプラットフォームで採用情報を発信する「FUTURE Group リクルートピア」を開設

2024年度新卒採用より、経験・スキルに応じた「バリュー選考」も開始

フューチャーでは、新卒・キャリアを問わず求める人物像として「ITの重要性を理解し、その可能性にワクワクし、IT力を武器に社会を変革していきたいというマインドを持つ人」を掲げています。2023年3月には、メタバースというテクノロジーに積極的に触れ、会社やプロジェクトの内容、カルチャーへの理解を深めていただくために、バーチャル空間で採用情報を発信する「FUTURE Group リクルートピア」を開設しました。

ライブリッツが提供するメタバースプラットフォーム「MetaStation[®]」を活用した「FUTURE Group リクルートピア」は、リアルとオンラインを融合した“新たな就職活動”のためのコンテンツです。空間内には、フューチャー、ライブリッツ、2022年10月よりグループに参画したゲーム開発会社ネイロのブースが設けられており、フューチャーのブースでは、オブジェクトをクリックすると「会社概要」「ビジネス・プロジェクト事例」「キャリア・働き方」のスライドが見られます。来場者同士でもスタンプ機能等でコミュニケーションを図ることができ、社員の滞在時であれば、チャットで質問などのやり取りをすることも可能です。

また、新卒採用においては、プログラミングテストによる選考を選択できる「コード選考」を2018年に導入するなど、応募人材の多様化とともに選考方法も多様化させています。2024年度新卒採用では「バリュー選考」を新たに導入し、個々人のスキルや経験を勘案した「ポテンシャル採用」、「アドバンスト採用」、「プロフェッショナル採用」の3カテゴリーを新設しました。学生でも高度なITスキルや専門知識を持つ人材が、キャリア採用と同様に即戦力として活躍し、それに見合う報酬を得られるようにすることで、様々なバックグラウンドやスキルを持つ優秀な人材の獲得につなげていきます。

※「MetaStation」はライブリッツ株式会社が商標出願中です。

■「FUTURE Group リクルートピア」



<https://recruit.meta-station.jp/future>

■バリュー選考

ポテンシャル採用

フューチャーのカルチャーに共感し、ITコンサルタントとして活躍するポテンシャルを有する人材向け

アドバンスト採用

AIやデータサイエンス、バイオ、サイバーセキュリティ、ミドルウェア開発、ビジネスといった特定の分野における知識とスキルを有する人材向け

プロフェッショナル採用

プロダクトやサービス創出などビジネスアイデアを具現化し、実務でリーダーシップを発揮できる人材向け

フューチャーの業績・財務状況

■ 連結貸借対照表 –決算のポイント–

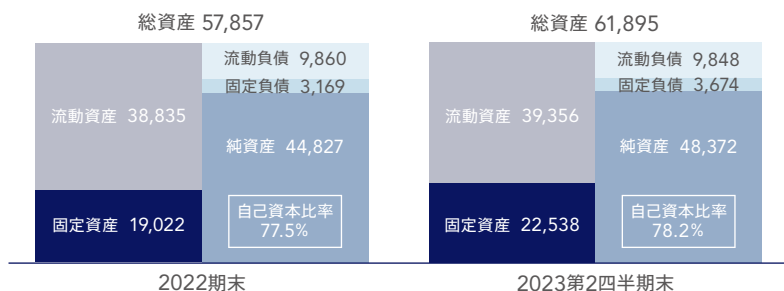
- ▶ 総資産は、その他流動資産、のれんの増加等により、前期末比4,038百万円増加
- ▶ 負債は、繰延税金負債の増加等により、前期末比493百万円増加
- ▶ 純資産は、利益剰余金の増加等により、前期末比3,545百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2022年12月31日現在	当第2四半期連結会計期間末 2023年6月30日現在
流動資産	38,835	39,356
固定資産	19,022	22,538
流動負債	9,860	9,848
固定負債	3,169	3,674
純資産	44,827	48,372
総資産	57,857	61,895

総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

■ 連結損益計算書 –決算のポイント–

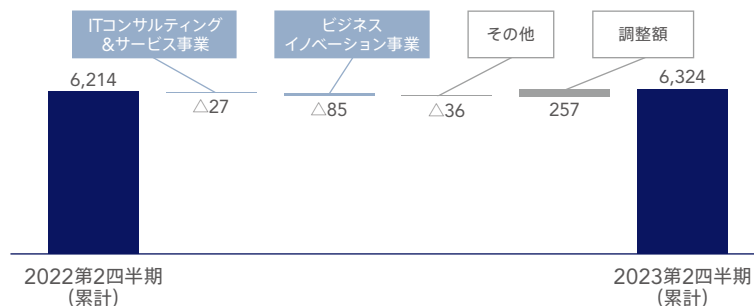
- ▶ ITコンサルティング&サービス事業、ビジネスイノベーション事業ともに増収・減益となったものの、連結全体の売上高、営業利益は増収・増益、親会社株主に帰属する当期純利益は減益

[単位:百万円]

	前第2四半期連結累計期間 自2022年 1月 1日 至2022年 6月30日	当第2四半期連結累計期間 自2023年 1月 1日 至2023年 6月30日
売上高	25,940	28,344
売上総利益	13,081	13,651
販売費及び一般管理費	6,866	7,327
営業利益	6,214	6,324
経常利益	6,432	6,526
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,517	4,319

営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

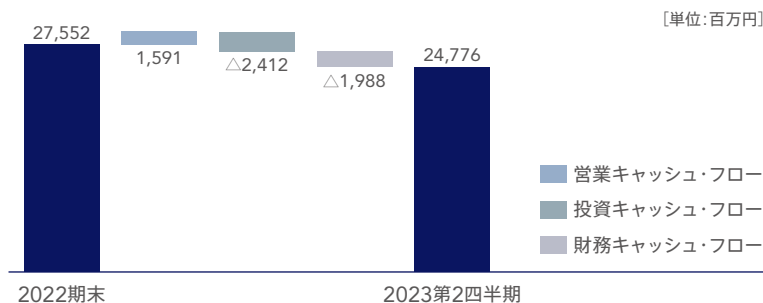
■ 連結キャッシュ・フロー計算書—決算のポイント—

- ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上等により、1,591百万円の収入
- ▶ 投資活動によるキャッシュ・フローは、M&Aに伴う株式の取得、ソフトウェアの計上等で成長投資の実行により、2,412百万円の支出

[単位:百万円]

	前第2四半期 連結累計期間 自2022年 1月 1日 至2022年 6月30日	当第2四半期 連結累計期間 自2023年 1月 1日 至2023年 6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,540	1,591
投資活動によるキャッシュ・フロー	△997	△2,412
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,252	△1,988
現金及び現金同等物に係る換算差額	34	34
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	2,324	△2,775
現金及び現金同等物の期首残高	21,430	27,552
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,754	24,776

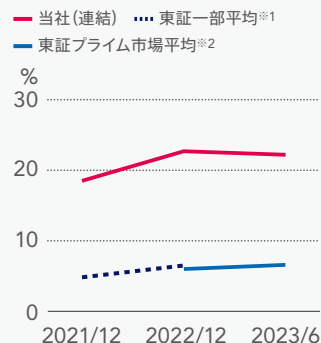
キャッシュ・フロー



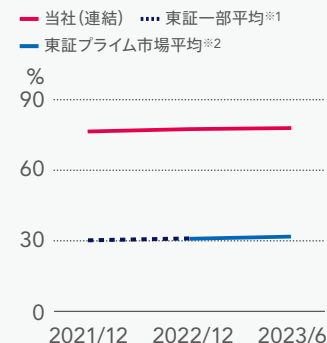
※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

■ フューチャーの投資指標

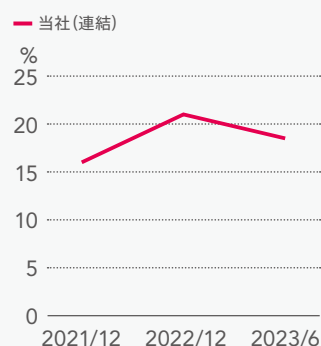
売上高営業利益率



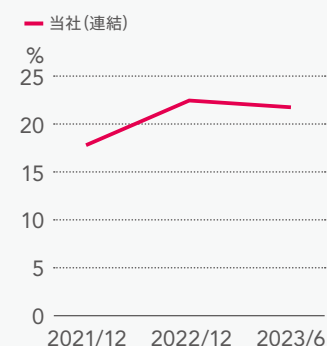
自己資本比率



自己資本当期純利益率(ROE)※3



総資産経常利益率(ROA)※3



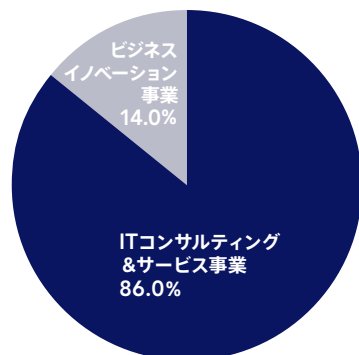
※1 2021年3月期、2022年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証一部上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。

※2 2022年3月期、2023年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証プライム市場上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。
(出典:東京証券取引所統計資料)

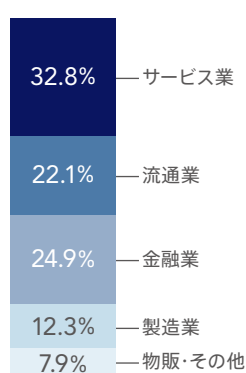
※3 自己資本当期純利益率・総資産経常利益率の2023年6月の数値は年率換算しております。

フューチャーのセグメント別業績・戦略

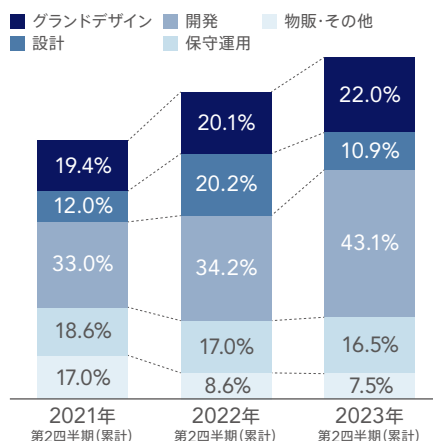
■ セグメント別売上高構成比 2023年第2四半期(累計)



ITコンサルティング&サービス事業における業種別売上高構成比
2023年第2四半期(累計)



ITコンサルティング&サービス事業におけるフェーズ別売上高構成比推移



※1 物販・その他はIT機材の選定・調達・販売のほか、ライセンス販売による売上高等となります。

※2 2021年第2四半期(累計)の数値は収益認識基準適用前の数値となります。

■ 2023 上半期レビュー

ITコンサルティング&サービス事業

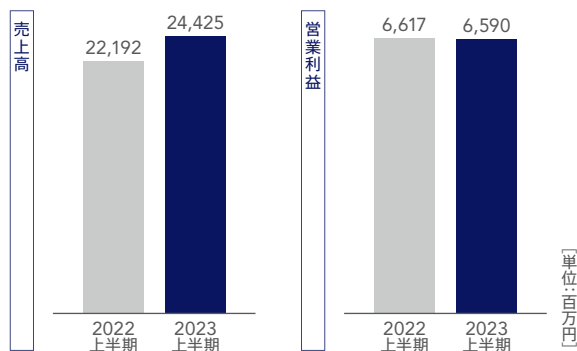
- ▶フューチャーアーキテクトは、小売業、アパレル業、新聞社グループなど多種多様なお客様の案件に加え、当社の中長期的な成長に資する地域金融機関向け「次世代バンキングシステム」なども順調に進行しました。一方、品質管理のためのコストが計画より多く発生したことや、研究開発への投資などにより、増収・減益となりました。
- ▶フューチャーインスペースは、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が好調に推移し、増収・増益となりました。
- ▶FutureOneは、オリジナルの中小企業向けパッケージソフト「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業界など業界特化型の営業展開による受注が拡大し、増収・増益となりました。
- ▶ワイ・ディ・シーは、製造業を中心とした新規顧客開拓などのSIに加え、基幹システム刷新やSmartFactory構想のグランドデザインコンサルティングなど戦略立案フェーズからの展開が増加し、増収・増益となりました。
- ▶ディアイティは、サイバーセキュリティ関連の受注や製品の販売が想定に届かず、採用コストも増加していることから、減収・減益となりました。

ビジネスイノベーション事業

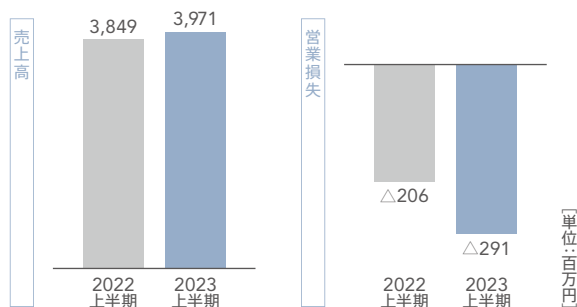
- ▶YOCABITOは、トレーニングギアが好調に推移した一方で、アウトドア市場の競争が厳しく販売に苦戦し、物流コストの増加もあり、減収・減益となりました。
- ▶東京カレンダーは、「東カレデート」等のネットサービス収入が堅調に推移したものの、新サービス「グルカレ」の立ち上げ費用が発生したことで、増収・減益となりました。
- ▶コードキャンプは、個人向けは売上が減少したものの、法人研修事業が伸長したことから、増収・増益となりました。
- ▶ライブリッツは、スポーツチーム向けの会員管理・ECパッケージ「FastBiz」やスマートフォンアプリ開発技術を、飲食業や保険業などの他業種に展開したことから、増収・増益となりました。

■ 2023 上半期実績

ITコンサルティング&サービス事業



ビジネスイノベーション事業



■ 今後の見通し

ITコンサルティング&サービス事業

- ▶フューチャーアーキテクトは、経営革新を図る多様な業種のお客様から基幹システム刷新等の案件を受注しており、プロジェクトの確実な進行を図るとともに、お客様のDX人材育成プログラムなどの新規受注に努めていきます。また、地域金融機関に向けた「次世代バンキングシステム」をはじめ、業界全体の長年の課題解決に資するITソリューションをメディア業界やアパレル業界のお客様にも提供するなど、中長期的な成長につながる取組みを強化していきます。さらに、人材の獲得や教育への投資、プロジェクトマネジメントの強化など体制づくりにも注力していきます。
- ▶フューチャーインスペースは、複数の大型プロジェクトの開発を安定的に進め、着実に収益を拡大するため、開発品質のさらなる改善と人材の採用・育成に注力します。
- ▶FutureOneは、「InfiniOne」の業界特化型の営業展開による受注拡大を図るとともに、製販一体でトータルソリューションを提供し、収益の拡大を目指します。
- ▶ワイ・ディ・シーは、製造業へのスマートファクトリー提案を強化するとともに、SaaSサービスを中心とした顧客接点改革ビジネスの拡大を狙います。
- ▶ディアイティは、ゼロトラストを実現するセキュリティライフサイクルをお客様に提供すべく、採用・教育に注力して人材を強化するとともに、ログ解析サービスや危機管理に対応したサービスの提供を推進します。

ビジネスイノベーション事業

- ▶YOCABITOは、滞留在庫のクリアランスにより販売在庫の適正化を図っています。また自社旗艦店とECサイトの相互送客に加え、他社小売店向けの卸売販路の拡大を進めています。停滞する国内需要に対し、海外からのアウトドアプライベートブランドの引き合いが強いことを受け、海外卸売ルートも推進しています。
- ▶東京カレンダーは、プレ運用を開始したレストラン予約サービス「グルカレ」を新たな収益の柱とすべく、月刊誌、WEBメディア、「東カレデート」など各サービスとのシームレスな連携を図っていきます。
- ▶コードキャンプは、DX人材育成やリスキリング等、企業や自治体のニーズに合わせたサービスを強化します。また、経済産業省の「リスキリングを通じたキャリアアップ支援事業」の推進事業者として採択されたことから、個人向けリスキリング領域の事業にも注力していきます。
- ▶ライブリッツは、最新技術を活用したDXソリューションの提供に加え、集客やファンサービス業務をカバーするマーケティングサービスにより、お客様ビジネスの拡大と自社の収益拡大を図るビジネスモデルの構築を進めていきます。

会社概要(2023年6月30日現在)

会社名	フューチャー株式会社
英文社名	Future Corporation
設立	1989年11月28日
資本金	40億円
従業員数	2,887名(連結)

役員(2023年6月30日現在)

代表取締役会長 兼 社長	金丸 恭文
取締役副社長	石橋 国人
取締役	神宮 由紀
取締役CTO	齋藤 洋平
取締役	山岡 浩巳
取締役(常勤監査等委員)	市原 令之
取締役(監査等委員)	川本 明
取締役(監査等委員)	榊原 美紀
取締役(監査等委員)	西浦 由希子

主要な連結子会社の状況(2023年6月30日現在)

- フューチャーアーキテクト株式会社
- フューチャーインスペース株式会社
- 株式会社ワイ・ディ・シー
- FutureOne株式会社
- 株式会社ディアイティ
- イノベーション・ラボラトリ株式会社
- 株式会社YOCABITO
- 東京カレンダー株式会社
- コードキャンプ株式会社
- ライブリッツ株式会社
- 株式会社キュリオシティ
- フューチャーインベストメント株式会社

他8社

主な事業所(2023年6月30日現在)

本社	〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー TEL : 03-5740-5721 FAX : 03-5740-5820
名古屋オフィス	愛知県名古屋市中区
大阪オフィス	大阪府大阪市中央区
福岡オフィス	福岡県福岡市博多区
鹿児島オフィス	鹿児島県鹿児島市

株式の状況(2023年6月30日現在)

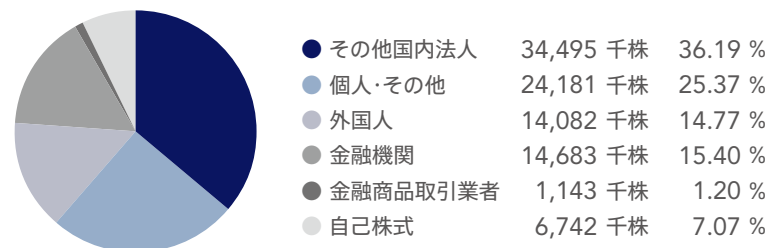
発行可能株式総数 378,752,000株
 発行済株式の総数 95,328,000株
 株主数 5,858名

大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
合同会社キーウェスト・ネットワーク	30,187	34.0
金丸 恭文	11,117	12.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,152	9.2
SGホールディングス株式会社	4,000	4.5
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	3,588	4.0
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,781	2.0
石橋 国人	1,236	1.3
モリヤマ ヒロシ	1,164	1.3
フューチャー従業員持株会	1,081	1.2
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	735	0.8

※1 当社は、自己株式を6,742千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。
 ※2 持株比率は自己株式(6,742千株)を控除して計算しています。

株式の所有者別状況



ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主メモ

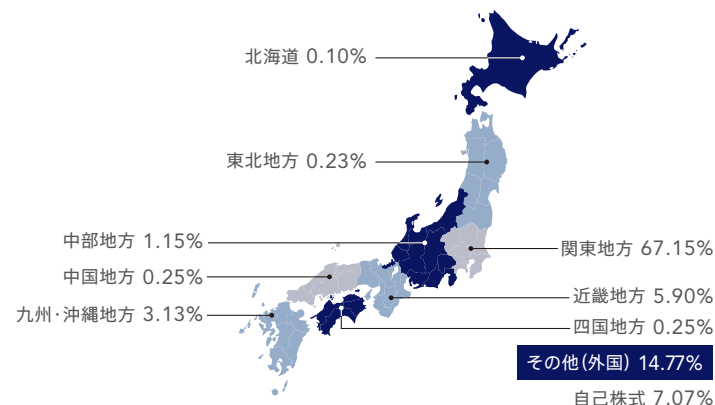
決算期 12月31日 期末配当基準日 12月31日
 定時株主総会 3月 中間配当基準日 6月30日

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 (連絡先・照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 フリーダイヤル:0120-782-031
 ホームページ:

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

公告掲載URL https://www.future.co.jp/investor_relations/notice/
 ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

株式の所在地別状況



注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性がございます。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

Future Report 2023

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2

<https://www.future.co.jp>

表紙写真: ジークスター東京

「ジークスター東京」は、フューチャーグループのジークスタースポーツエンターテインメント株式会社が運営・マネジメントする日本ハンドボールリーグ所属チームです。